

C-24 和服地の縫製に関する研究(第10報) —成育歴と縫製能率について—  
栗丘会津短大 佐川澄子

目的 和服地の縫製能率と成育歴との関係を明らかにするため、少年期の手指運動を促がす学習が、長じて縫製能率を向上させるかどうか、これらの解明に次の事項について実験した。

方法 家政科学生132名を4班にわけ、少年期にソロバン学習によって級を取得したか、また器楽練習を1年以上したかどうかをききとり調査によって行ない、A、Bグループとした。次に掌中でキーをたたくことが出来るタツピング運動を5秒間2回行なった。1学期当初より毎週1回なみぬい5分間を実施しているが、第10週目の成績を資料としてとりあげ、それぞれの平均値、相関関係について検討した。

結果 成育歴の中で他の学習によってAに属する者は各班とも約6:4の割合であった。タツピング数ではAの方が各班ともすぐれ、3班では有意差が認められた。なみぬいの資料については長さ(速さ)の比較でAの方がすぐれ、4班で有意差が認められた。針目の正確率でも各班ともAグループが優位を示した。次にタツピング運動と針目の正確率との間に相関関係があるかどうか検討したところ、1年生では相関度が低いが、2年生は相関度高く、3班Bグループでは有意差が認められた。

以上のことから、少年期における他の学習による手指の訓練は、長じて後、学習が困難といわれる縫製能率向上に多大の影響を及ぼすものであることを確認した。